

美女翁長マヂル

松田ミヨ (1901・M34) 字喜名 (02 : 39)

うなが はなし ちゆ
翁長マヂルー 話 え、いっぺー美らーやたんでいし
えーやー。うぬ翁長マヂルーとう ちやたん
あらそ あ
ぬ 競 いぬ有たんでいせー。

ちやたん うとう ちゆ
あんさくとう、北谷モーシーや 音 うっち美らは
うなが ぬ ちなー ちゆ
しえーや、翁長マヂルーや、何が、喜名うてー美らー、
ちゆ いち いっか うなが
いっぺーぬ美らーやしが、何時ぬ何日あ翁長マヂルー
すーぶ ちやたん かく ぬ
とう勝負どーんち、北谷モーシー駕籠んかい乗しら
ちや
って来んでい。

うなが ちゆー ちやたん
翁長マヂルーどうしえー、また、今日や北谷モーシ
ちゆ うが
ー美らーがめんしえーでいるむん 挿みわるないさん
ちゆ からじ なが ちゆ
ち。うぬ人お 髪 えいっぺー長はぬよー、うぬ人が
からじあら くま う
髪 洗いぬー、此処ぬウスクんじどう 打っちゃきてい
ふー からじ なが
干しみしえたんでい、髪 ぬどうく長はぬ。

どー あれ がみ ばさーぢん
あんし、自分や洗え髪ぐわーし、芭蕉衣かつとうぐ
ち とつ ちやたん うんー
わー着ち、飛んじたくとう。あぬ北谷モーシーや 見
ちゆ をう うなが んー
ぢゆる人お居らん、翁長マヂルーどう見ちゃんでい
むる ちゆ あ
全員、人ぬ有るさ。

ちゆ うなが ちゆ
どうく美らはぬ、翁長マヂルーや美らはぬ、うりさ
すい うどうん まー
くとう。首里ぬ御殿からアットーメーや亡しみみそ
どー ほんさい まー うなが
ーちゃくとう、自分ぬ本妻や亡ちゃくとう、くぬ翁長
とうじ
マヂルー 妻 するうりんかいなとーてーるふーじ。

とうじ すい ぬぶ
あんし、妻し、首里んかい上とーみしえーんでい
うなが ぬぶ
どー、うぬ翁長マヂルーや。上とーみしえーんしが、
うんま
其処ぬウミングウぬ、いやりんうりんサーダカウンマ
みきが うや とう
リるそーてーはに。男 ぬ親んかい、「あぬー、お父
ちゆ くむとう な けー くい
さん、うぬ人お 国 元んかい、産しみんかい 帰ち呉
ぬ ぬー ゆ
みそーり」んちゃくとう、「何が、何故んちあん言が」
いーち いん に
んちゃくとう、「息 ぬ短ぢやはみしえーん。寝んと
いーち いん ながぬち うが
ーる 息 ぬ短ぢやはみしえーくとう、長命え挿みみ
くにむとう どうー うん
そーらんぐとう、あぬー 国 元んかい、自分ぬ生まれ
くに けー
国んかい 帰しみてい、うりしみそーり」んちゃくと
いーち
う、「えー、あんやんなー 息 えじよーいやんなー」ん
いーち うんどう
ちゃくとう、「息 ぬ 鈍 さみしえーくとうやー、
ながぬち ぬー けー けー いひ
長命え無みそーらんぐとう、帰し」んち。帰ち、少
まー
ぐわーゆーるさくとう、んちゃ、亡しみそーちゃんで
い。

【共通語訳】

翁長真鶴は話によると、大変な美人だったそう
だね。その翁長真鶴と北谷真牛との美女比べがあつたよ
うだ。

北谷真牛は噂に名高い美人でしょう。翁長真鶴もま
た喜名では一番の美人だった。ある日、北谷真牛が翁
長真鶴と美女比べをするということで、駕籠に乗せら
れて喜名にやって来た。

翁長真鶴は、今日は北谷真牛という美人がいらっし
やるということだし、お会いしてみようと思ってい
た。その翁長真鶴の髪はとても長く、髪を洗った後は、
このウスクドーのウスク（アコウ）の木にかけて乾か
していたそうだ、髪があまりにも長くてね。

それで、美女比べの日、翁長真鶴は洗い髪に芭蕉衣
をパツと羽織って飛び出していった。そしたら、北谷
真牛を見る人はいなく、人々の目は翁長真鶴に向けら
れたんだって。

翁長真鶴があまりにも美しかったんだね。その翁長
真鶴を、奥方を亡くされた首里の御殿の主人が、妻に
招き入れることになったそうなんだ。

そうして、翁長真鶴は後妻として首里に嫁いで行か
れたようだ。しかし、首里の先妻の御子は、たぶん靈
力が強かったんでしょね。その子が父親に、「お父
さん、その人を国元へお帰し下さい」と言った。「な
ぜ、そんなことを言うのか」と父親が聞くと、「その人
の息が弱々しく聞こえます。寝ているときの息が弱々
しいので、命はそう長くはないと思います。国元へ帰
して、自分の生まれ島（出生地）で残りを過ごさせて
下さい」と言うのだった。「えっ、そうか、そんなに息
は弱々しいか」と聞くと、「息づかいがとても弱々し
く、長生きはどうてい無理だと思います。早く国元へ
帰して下さい」と言った。それで、翁長真鶴は国元の
喜名へ帰して、しばらくしたら、本当にその通り亡く
なったそうだ。

だー、うぬ人お亡^{ちゆ まー}ちやーにかい、なーうぬ通^{とー}いさ
ーにかい、私^{わっ}たー喜^{ちなー}名^{いちむん}ー門^{うはか}ぬ御^{うく}墓^{うく}んかい送^{うく}らっどー
さ。ジューファー^{かがぬ}ん 鏡^{なま}ん、今^あん有^あいまま。

うぬ人お、翁^{ちゆ}長^{うなが}マヂルーや前^{めー}喜^{ちなー}名^{あなぐ}ぬ女^{ぐわ}ん子^{めー}、前^{ちなー}
喜^{いー}名^{でー}ぬ上^す代^{あなぐ}元^{ぐわ}祖^あぬ女^あん子^{ちゆ}やるばー、いっペー美^{ちゆ}らは
たんでい。いっペー美^{ちゆ}らはぬ、うぬ人^{ちゆ}が髪^{からじ}え地^じい
っちきーたんでい。家^{やー}うてい洗^{あら}たーにかいやーウス
クドーよ、ウスクんかどう打^うっちやきてい髪^{からじ}えちよ
ー干^{ふー}しみしえーたんでい。あんすかぬ、髪^{からじ}持^むちやい、
いっペー美^{ちゆ}らはんたんりしがよー。

あんし、家^{やー}んかい帰^{けー}ていち長^{なが}やもーらんたんでい
どー。すぐ亡^{まー}しさーなか、なー夫^{をうとう}ぐさいん取^とらん
なー、親^{うや}ぬ家^{やー}うていうぬままし、親^{うや}ぬ御^{うはか}墓^いんかい入^い
っちよーんしえーるばーやさ、今^{なま}ん。まーにんくさら
んあれー、うぬまま。

そうして、亡くなられた翁長真鶴は、私たち喜名一門の墓に葬られているんだ。その墓にはジューファー（かんざし）や鏡も、当時のまま残っているよ。

翁長真鶴は、前喜名の祖先の娘で、とても美人だった。その人の髪は地面に届くほど長くてね。家で髪を洗うと、ウスクドーのウスクの木に打ちかけて乾かされていたということだ。それほど美しい髪の主で、とても美人であつたらしいけどね。

だけど、家に帰って来てからは、長いこと待たずに亡くなられたので、どの人にも添わずに、実家でそのまま一生を終え、実家の墓に納骨されているわけだよ、そのまま。